

「生命科学—つくばの研究者群像」

推薦の言葉

つくばサイエンス・アカデミー (SAT) は、「つくばの広い分野の研究者が集いあって新しい概念を作り出す」という趣旨で 10 年前に発足した研究者交流団体である。私はノーベル賞に到達するためには、異分野からの刺激が不可欠と思っており、その意味で、SAT の活動に強く期待している。

このたび、この SAT の編集で、生命科学のいくつかの分野からの寄稿を受け、「生命科学—つくばの研究者群像」を出版する運びとなったことは、まことに喜ばしい。

6 名の著者は、世界的に活躍する若手中心の研究者たちであり、生命科学の夜明けから未来まで、それぞれわかりやすく熱意を込めて先端的な研究を紹介されている。本書によって読者は、DNA と RNA をキーワードとするダイナミックな生命科学研究の全体像を把握することができるであろう。

本書では、生命科学の先端研究紹介のほかにもう一つ、著者それぞれの成長過程や研究に対する考え方にも触れられていることが大きな特徴である。恩師や友人たちとの交流、研究漬けの毎日、落ちこぼれ意識の払拭、研究者としての充実感等々、題名どおりの群像が描かれており、本書は若者（高校生や大学生）のための人生のガイダンスとなっている。また生命科学に挑戦する若者たちへの激励の書ともなっており、特に大学院進学を志す若者には格好の指針・入門書でもあろう。一般市民にとっても、人材育成のための啓発書として意義深いものと考えらる。

多くの読者が、本書を通じ生命科学分野に親しみを持たれ、周りの若者たちへの期待を高める契機となるよう本書を推薦したいと思う。

終わりに、興味深く有意義な本書を執筆された先生方、編集の労を取られた SAT 運営会議委員西村暹博士、SAT コーディネーター溝口健作博士、出版にあたりご助言賜った筑波大学出版会の関係各位にお礼申し上げたい。

財団法人茨城県科学技術振興財団理事長
つくばサイエンス・アカデミー会長

江崎玲於奈